

完了報告書

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付: 2021年3月25日

事業ID: 2020533551

事業名: 障害児者の感染予防と
支援環境整備(covid19支える)

団体名: 社会福祉法人くるみ

代表者名: 岡本 久子 印

TEL: 0766-54-5703

事業完了日: 2021年3月31日

| | | | |
|----------|---|------------|----------------------|
| 事業費総額 | : | 5344900円 | 収支計算書の黄のセルの値 |
| 自己負担額 | : | 1,424,900円 | 収支計算書の緑のセルの値 |
| 助成金額 | : | 3,920,000円 | 収支計算書の赤のセルの値。千円未満は切捨 |
| 助成金返還見込額 | : | 0円 | (収支計算書の青のセルの値) |

1. 事業内容

助成契約書記載の事業内容(予定)と、事業完了時の事業内容(実績)を対照可能とするため、助成契約書と一緒に綴じている「事業計画」の事業内容欄を転記した上、体裁を変えずに結果を記入してください。

なお、事業内容を複数設定している場合は、各事業内容ごとの完了時の実績を個別に記入してください。事業内容が4つ以上ある場合は、一つの事業内容ボックスに複数ご記載頂いて構いません。

■ 事業内容1

(1) 助成契約書記載の事業内容(予定)

1. 感染予防対応
(1) 時期: 2020年10月～2021年12月
(2) 場所: くるみの森(富山県高岡市)
(3) 内容: 感染予防機器の設置等

(2) 事業完了時の事業内容(実績)

1. 感染予防対応
(1) 時期: 2020年12月～2021年2月
(2) 場所: くるみの森(富山県高岡市)
(3) 内容: 感染予防機器の設置等



(3) 成功したこととその要因

空間を壁で仕切ることにより個別の部屋の確保ができ、来所される方の各部屋が確保され、コロナ禍でも安心して過ごすことができた。また、シャワールームを設置することで、排泄の失敗時には感染予防にすぐ対応することができた。

(4) 失敗したこととその要因

納品の遅れや工事業者の日程が合わず事業を実施する期間が延びた。
密を避けるための工事だったが、利用者の場所の確保ができず、工事期間中は一室で過ごすことになった。

(5) 事業内容詳細

別添の事業報告書を参照

■事業内容2

(1)契約時の事業内容

2.サービスのリモート・デジタル化
(1)時 期:2020年11月
(2)利用者:医療児的ケア児(10名)、各事業所職員
(3)場 所:利用者宅、各事業支援室(3ヶ所)、
本部事務所



(2)事業内容の実施(完了)状況

2.サービスのリモート・デジタル化
(1)時 期:2021年3月
(2)利用者:医療的ケア児(0名)、各事業所職員
(3)場 所:各事業支援室(3ヶ所)、本部事務所

(3)成功したこととその要因

機器の導入により、事業所が離れていてもスタッフの顔を見て、日々の情報共有を行うことができた。デジタル化を行うことで、利用者の安全性を確保でき、怪我防止につながるようになった。

(4)失敗したこととその要因

機器の納品期間が大幅に遅れ、迅速なデジタル化が進まなかった。コロナ禍ということもあり、利用者宅への訪問ができなかった。しかし、職員間の情報共有ツールとなった。

(5)事業内容詳細

別添の事業報告書を参照

2.契約時事業目標の達成状況:

(1)助成契約書記載の目標

利用者の検温・手指消毒を自動で行い、作業空間を個室化し、看護師のリモート支援を行い、新型コロナウイルス感染予防を行うことを目標とする。

(2)目標の達成状況【700文字以内】

| 入力文字数 | 376 | 文字数チェック | OK |
|--|-----|---------|----|
| 建物内入口に自動の検温機をすることで利用者、保護者、スタッフの体調の変化に体温で気付くことができた。また、自動の手指消毒を取り入れることで、人との接触や、器具に直接に触れることなく、消毒ができるので、よりよい感染予防対策に繋がった。さらに、外部からの来客等に対しても安心して施設内を見学したり、実習の受け入れを行うことができた。作業空間を個別化にすることで、一人一人の空間を確保でき、しっかりと利用者とスタッフの距離感を保てることができた。利用者の発熱時や怪我等をしたときに、すぐリモートで看護師とのコミュニケーションが図れ、画面を通じることで、顔色や普段と違う様子を瞬時に伝えることができ、適切な指示を受けることができ、利用者の負担軽減や、直接看護師と接することがなくても、支援を受けることができ、新型コロナウイルス感染予防に繋げることができた。 | | | |

3.事業実施によって得られた成果

- ①感染予防対策が向上した
 - ・ソフト面 感染意識の向上
児童・保護者 自動検温器機と自動手指消毒機を設置したことで、積極的に活用する姿が見られ、検温やマスクの着用の意識が向上した。
 - 職員 外部訪問者の検温チェックが確実にできることで、来客者記録を実施し、外部からの感染を予防する意識が高まった。
 - ・ハード面 構造設備…部屋を区切ることやシャワールームを設置することで物理的に、感染リスクの低下を図ることができた
- ②コロナ禍での支援環境が整備できた
 - ・支援の質の向上…コミュニケーションユニットの導入により、各拠点間の情報共有が常にリモートで可能となり支援の向上が図れた。
 - ・リスク管理 …医療的な判断が必要な場合に、他拠点にいる看護師から対応の指示が可能となった。
 - ・コミュニケーションの向上…遠隔場所にいるスタッフや利用者の映像を見ることで、各拠点間の理解が図れた。視線を合わせたり、手を振ったりすることで、リモートながらも気持ちの共有を図ることができるようになった。
 - ・今後利用者が自宅に居ながら、看護師や保育士がリモートで支援を行う整備が整えられ、いつでも安心して地域で生活ができることを見込まれる。

4.活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案

- 1.感染予防対応
 - ・自動検温機を触る利用児がいる →定期的な消毒を実施
 - ・自動消毒機の消毒液が多く、手指や床が濡れてしまう →配置する机やトレイを準備
 - ・部屋を区切ることで、職員同士の動きが見えなくなるため連携が難しい →活動計画により動きの共有を実施
- 2.サービスのリモートデジタル化
 - ・コミュニケーションユニットの操作が複雑 →スタッフ会議で操作の研修を実施
 - ・カメラやモニターが気になる利用者がある →活動に誘ったり支援や場所の工夫を行う

5.事業成果物

(1)助成契約書記載の成果物名称

- 1.ホームページでの報告
- 2.広報誌の作成

(2)事業完了時の成果物名称

- 1.ホームページでの報告
- 2.広報誌の作成 200部



(3)未作成となった要因

(4)成果物を登録したウェブサイトのURL

成果物の登録方法については、こちらをご確認ください→ <https://kuruminomori-963.com/>